

## 令和7年度 第2回加賀市男女共同参画審議会 会議録

1. 開催日時 令和8年2月18日(水)13時30分～15時00分
2. 開催場所 加賀市市民会館 第2会議室
3. 出席者 〈審議会委員〉(50音順)15名中11名出席  
新家尚子、大山亜希子、岡西尚美、河本正巳、菊池知子、  
篠原直美、田中重穂、中田千香、花輪由樹、村井敦子、横倉ゆか  
〈事務局職員〉  
行政まちづくり課 篠田課長、堀野リーダ、永井主査
4. 取 材 1件
5. 議事概要 (1) 令和7年度 男女共同参画推進事業の実施状況について  
(2) 令和8年度 男女共同参画推進事業の主な取組について  
(3) 令和8年度 男女共同参画に関する市民意識調査について
6. 開 会

事務局 <審議会の公開について説明>

委員15名中11名の出席があり、審議会規則第4条第2項に基づき審議会が成立していることを報告。

審議会規則第4条の規定により、ここからの議事進行は会長にお願いする。

会 長 議事(1)令和7年度男女共同参画の取組について、事務局から説明を。

事務局 最初に絆・つながりサポート事業について、受託者であるHappyAXIAから説明をいただく。

HappyAXIA <かが絆・つながりサポート2025について説明>

会 長 若い人たちが惹かれそうなチラシ、しかも、キャッチーな名前でもあるので、引き寄せられた方もいるのではないかなと思う。例えば今後、中学生、高校生またはそれ以上の若い人たちもうまく巻き込みながら、主催側になっていってもらえるといいのかなという気がするが、その辺りの見込みはあるか。

HappyAXIA 私たちは助産師などの公的な免許があり、質問を受けることもできるので、イメージとしては、つながりができた方がフォローしてくださり、

少しずついろいろな方とつながっていきたい。その中で、同じように困っている人をつなげる役割を果たしてくれたらよいと思っている。例えば、市のまちづくり担当とつながりながら、若い人たちをどんなふうに巻き込んでいくか。若い人たちには、情報を受け取るだけではなく、ちょっとした発信側にもなることで、例えばこのチラシを作るとかでもよいので、若い人たちが得意とすることから徐々に巻き込んでいくと、すごく大きな、らせん状の渦になっていくのではないかなと思っている。

会 長 講座を受講後どのように変わったか、については、「新しい価値を得た」とあるが、新しい価値観や意識変化があった人は何ができるか。何かしたいけれども具体的に思いつかないという方もいると思うので、例えばこういうことをしてみたいとか、ほかの事例ではこういうことをしているというような、自分だったらどのように参加できるか、やってみることができるかといったような、+αのアドバイスシートのようなものがあると、具体的にイメージが湧くのではないかな。

HappyAXIA 実は山中地区などでも、講座が終わった後に、次はここで講座をやりたいからお願いできるか、とか、今度こんなことをするなら呼んでほしい、とか、オフレコな部分でいろいろと御意見を頂いている。その方々とこれからもつながっていくことで、また何か違う形はできるのかなというふうに考えている。

委 員 加賀市内の小・中・高校全ての学校で、助産師講座は行なわれているのか。

HappyAXIA 市内全中学校では、石川県助産師会が講座を引き受けていて、全学年で助産師がそれぞれ話をしている。

高校では、昨年度、健康課がプレコンセプションケア事業の一貫として、大聖寺高校と聖城高校で授業を行った。各学校が個別に外部講師を呼んで講座をしているとのこと。

小学校では、親子ふれあい事業というのを加賀市がやっていて、低学年で赤ちゃんに触れ合ったり、お母さんの話を聞くという講義をやっており、その中で「プライベートパーツを守る」ということの説明をしている。赤ちゃんにもプライベートパーツがあり、いきなり顔を触ったりしないように、同じように、自分や友達のプライベートパー

ツについて一緒に考えるという授業を行なった。性の安全教育は少しずつ進んでいるかなと思う。

<HappyAXIA 退席>

<その他の令和7年度の実施事業について事務局より説明>

会 長 質問はないか。

委 員 医療センター入り口に置いてある車いすが古いままで更新がされていない。

事 務 局 医療センターに状況を確認し、そういう声があることを伝える。

委 員 DVの相談窓口について、あいりす相談ではどのくらいの相談があるのか。

委 員 週1回電話相談をしているが、長々と相談をする人が1人いる。

事 務 局 年間の相談件数は、昨年度までは数件だと聞いている。

委 員 今は10人ぐらいか。

会 長 国際女性デーの啓発として、例えば、来庁者に少しずつお花を配布するというのは可能か。小分けにして、ラッピングして配ると、国際女性デーと認識されやすいのではないか。また、小・中学校で配ると、家に持ち帰って国際女性デーについて話をして広げてもらうというのも、一つではないか。

事 務 局 国際女性デーの取組は、県でも昨年度から始めたもので、県下全市町で一斉に取り組もうという声がかかった。今年度は、ミモザの造花の展示と医療センターでのライトアップで参加することになった。頂いた意見を参考に、今後の啓発方法については検討していきたい。

会 長 他にないか。

次に、令和8年度男女共同参画推進事業の取組について事務局から説明を。

事 務 局 <令和8年度男女共同参画推進事業の主な取組について、説明>

会 長 質問はないか。

委 員 今年度、かが絆・つながりサポート事業など若年女性を対象とした取組をしてきたが、次年度はかが絆・つながりサポート事業のような事業や取り組みは考えているか。

事 務 局 次年度は、かが絆・つながりサポート事業については、一旦市での実

施は見送る。次年度は市内の女性が課題としてどのような困難を抱えているかという調査を重点的に行い、令和9年度以降の事業について検討するための期間とさせていただきたい。

会 長 重点推進地区について、毎年地区が変わると思うが。

事務局 重点推進地区は、2年ごとに取り組んでもらっていた。今年度は分校地区と山代地区の2地区であった。次年度の地区については、各地区に打診しているところである。

会 長 1年目と2年目で違う内容の取組をするのか。その地区らしさ、地区ごとにやってみたいことなどが活かされているのか。

事務局 地区の課題にあわせ、どのような啓発方法がよいのか、地区と話を決めて決めている。結果、講演会や年輩の方を対象とした落語の開催による啓発などを実施している。

委 員 分校地区では、毎年、女性会や商工会との共催で夏季講演会を実施している。今年度は、男女共同参画に関する内容の講演会を行った。今年度は、特に、二木さんの講演が、単なる聴講ではなく参加型の講演会だったので大変好評だった。いろいろな方々に声をかけたが、現状、やはり男性の参加が少ないので、それが課題かなと感じた。

事務局 これまでの重点推進地区事業でも、男性の参加が難しいという声があった。地区で声掛けし、周知してもらっても、特に年配の男性がなかなか参加されない。

委 員 今回、どちらかという主には男性に声をかけ、あとは有線で案内したり、ポスターを各所に貼ったりして周知をした。区長や区役の経験者にも直接声をかけたが、難しかった。

会 長 どこの地域でもその問題があると聞く。高齢の男性の方が出てきにくい。解決策の一つとして、リーダー的役割のような何か役割を与えたり、相談をしてみるとか、何か手法があると思われる。その辺りは、今後どの地区が重点推進地区になっても課題になると思うので、また知恵を共有していただければと思う。是非意見をきかせてもらいたい。

委 員 区長会連合会の代表としてこの会議に参加している。講演会をすると、やはりまずその地区の役員の方々や、今までいろいろな活動に参加してくれていた各種団体の方に声掛けをして集める。その中でも男性が比較

的少ないということになってくるのは、やはりテーマもある。是非聞いてみたいと思ってもらえるようなテーマと、講師の先生、そういう情報をもっと前面に出して集客するしか方法はないのでは、と思う。

事務局 「男女共同参画」というと、男性の方が苦手意識を持たれやすいのかなとも感じている。その中でいかに参加してもらうか。分校地区では、広く声をかけていただき、多くの方に理解をしてもらおうという思いで動いていただいた。

会長 好評だった方を2年目も呼ぶというのも一つではないか。楽しかった、という口コミが伝われば。若い人たちは、SNSで発信するなどで少し効果はあるのだろうが、高齢の男性の方となると、また情報の発信の仕方が変わってくると思うので、やはり口コミなどでうまく連れてきていただけるような、ネットワークの方法も必要かなと思うので、今後少し考えていけたらと思う。

会長 他にないか。

なければ、今、説明のあった、令和8年度の男女共同参画推進事業について、承認してよろしいか。

<異議なしの声>

承認されたので、この計画に基づいて令和8年度の事業を進めていただきたい。

会長 次の議事③令和8年度加賀市男女共同参画に関する市民意識調査について、事務局より説明を。

事務局 <令和8年度男女共同参画に関する市民意識調査について、説明>

会長 質問はないか。

委員 追加調査項目の例の中に、「受付・接客・対応は女性の仕事だ」とあるが、市役所の総合案内はいつも女性である。違和感を感じる。

事務局 募集をかけると女性の応募があるという状況。これに限らず、非常勤という形態で入ってもらっているが、そういう募集をすると女性が来る可能性が高い。選んでいるわけではない。

委員 市民からみると、市の受付窓口として女性がいつも座っているので、受付の仕事は女性というイメージは強いと思う。

事務局 質問例として例示したのは、イメージであり、特にこの内容を尋ねる

と決めているわけではない。

会 長 調査方法や調査項目の選定において、だれかに監修を依頼する予定か。  
事務局 今後、調査を実施するにあたり、調査項目を追加するとなったときに、どなたかに監修として参加してもらえたらと思っているが、決まっていない。

会 長 質問項目をつくる際には一つの質問の中に二つ以上取り入れてはいけないという決まりがある。例えば、4つ目の「受付・接客・応対は女性の仕事だ」とあるが、受付は女性の仕事だ、接客は女性の仕事だ、など全て分けなければならない。人によっては、受付は女性の仕事だというイメージがあるが、接客は男性の仕事でもあると思う人がいる。また、「女性の上司には抵抗がある」と尋ねるのではなく、どのような上司に抵抗があるかというふうにして、「女性の上司」「男性の上司」という聞き方をした方が良い。現状の調査票をみると、誘導質問をしているところはないと思うので、追加する際にも、質問の仕方を考えたほうがよい。ちなみに、この調査項目数は、回答者に負担があるのではないか。

事務局 全体の調査項目の数はそれほど増やしたくない。増やす場合は、現状からどこかの項目を減らすことも併せて検討しなければならないと思っている。

会 長 次の第1回の審議会で検討することになる。次回は調査項目が加わるかもしれないので、その際には現状から削除もありえるとのことだが、現状で、もう一度この調査票をみていただき、もう少し変えた方がよい、と思うところがあれば、事前に事務局の方へ連絡してもらってはどうか。

事務局 大変ありがたい。次年度、第1回の審議会で調査項目を決定したいと思っているので、次年度審議会前に委員の皆様へは追加項目も含め、全体をご提案させていただき、審議会の場で意見を集約できればと思っているのでお願いしたい。

会 長 他にないか。この際、意見等はないか。

事務局 会長、ありがとうございます。委員の皆様も本日は貴重なご意見ありがとうございます。今年度ももちまして、現委員の任期が終了となる。次年度の委員改選について、公募枠の委員につきましては、広報かが3月号にて案内を掲載する。その他の各種団体から出席いただい

る委員は、各団体に推薦をお願いする文書を後日送付する。

以上で本日の審議会を終了する。

## 7. 閉 会